

溺死-お風呂の残し湯をやめましょう-

★1歳から4歳までの死亡原因の第一位は不慮の事故で、その中で溺水が約3割(特に1歳台は約4割をしめ、交通事故よりも多い)をしめます。

★毎年100人近くの乳幼児がお風呂場で溺れて亡くなっています。

★2歳未満の溺死の約8割がお風呂場で起こり、10cm位の浅い水深でも溺れています。

★こどもは体重に対し頭の割合が大きいいためバランスをくずし、頭から転落しやすいため、洗い場と浴槽の縁との落差が70cm未満の場合は特に注意が必要です。

★溺死のほとんどは周りの人のちょっとした心がけで防ぐことができます。

★溺死を防ぐには、



1. 5歳以下のこどものいる家庭では、入浴後はすぐに浴槽のお湯を抜きましょう。
2. 浴室のドアにはこどもの手の届かないところに外鍵をつけましょう。
3. 5歳以下のこどもだけでお風呂に入れないようにしましょう。

★浴槽のふたは厚く硬いものにしても転落は防げません。
こどもが絶対に浴槽のふたの上に乗らないように注意しましょう。

★お風呂以外で注意すること

1. 洗濯機の周りに足台となるものを置かないようにしましょう。
2. 洗濯機、ビニールプールなどに水をはったままにしないようにしましょう。
3. 海・川・池・プールなどでは、こどもから絶対に目を離さないようにしましょう。
こどもだけで遊んでいるのを見かけたら注意しましょう。



★溺れたこどもを見つけたとき、
心臓が止まって、脳に血液が流れない状態が5分以上続くと、助かっても脳神経が完全に元に戻ることはむずかしいとされています。救急車が到着するまでの人工呼吸、心マッサージが大切です。

1. 呼吸をしているかどうかをみて、呼吸をしていれば刺激をして水を吐かせたりして、呼吸が楽にできるようにしましょう。
2. 呼吸をしていなければ、人工呼吸、心マッサージを開始しましょう。
3. その間に人を呼び、119番に連絡しましょう。
4. 救急車が到着するまで人工呼吸、心マッサージを続けましょう。
5. 事故直後、意識や呼吸がもとにもどっても、必ず医療機関を受診しましょう。